

農業新時代の風を読む フォーラムを開く

三月十八日、公社が四月から社団法人として再出発するのを記念したフォーラムが角田市民センターで開かれまし

た。フォーラムには二百人が参加。公社顧問の小松光一茨城大農学部講師が基調スピーチを行い、「エコミュージアム、

あぶくま農学校の創設など公社ならではの新しい取り組みがある。絵に描いたもちにならないように、議論を進めてもらいたい。」行政と農家をつなぐ第三者機関で、全国に例のない非営利団体のNPOである」と同公社の意義を強調。その後、『農業新時代の風



▲パネラーの皆さん

を読む地域農業の進む道』をテーマにパネルディスカッションが行われました。

パネラーの佐藤角田市長は、「担い手を結集する組織の必要性から今回の公社設立に結びついた。」と公社設立のきっかけを話されました。

また、角田市とは、農協青年部を通じた子どもたちへの米づくりなどで、十年來のつきあいがあるという目黒区緑ヶ丘小学校志茂校長先生は、「今年の春から子どもたちに、田植えから稲刈りまで体験学習をさせたい。角田への熱き思いが、東京の親子の間で膨れ上がっている」と学校教育の現場から発言。

みやぎ生協地域担当理事の沼倉氏は、農業戦略プランが21世紀も意欲的に農業にチャレンジして行くことに期待し、「現在の産消提携の土台を作ったのは、角田。生産者と消費者が共に理解し、お互いに提案しながら地域の食文化などを大切にしていきたい。」と生協運動から見た角田の農業を語りまし

角田市商工会の佐藤青年部長は、「最近販売したあぶくま豆腐セットは好評を博しているが、地域資源を考えての製品では無かった。今回の販売で再認識した。」

角田市農業経営者会議の太田氏は、「黒豚と提携米の産直を通じて、循環型農業について考えてきた。」と公社に対しての期待を述べた。同じく、農業経営者会議の堀米氏は、「地域農業をどうするのか。どうしたいのか。自分たちは何ができるのかを話しあう機会を多くすること。また、若い人たちが入ってこられるような環境づくりを進めていきたい。」と抱負。また、農業経営者会議の鎌田氏は、「角田には、都会や他の市町から多くの人が来てもらえる工夫が必要。商工会と我々の考えは似ているので、今後連携して情報発信していきたい。」と話

しました。コーディネーター小松氏から「これからは農村側からライフスタイルを作っていく必要がある。代々と築いてきた、先人達が生みだしてきたのを大切に、食と農をキーワードにもう一度日本を作り直そうと。」激励しました。

第一回農業戦略会議を開催

四月二十五日、第一回農業戦略会議を開催し、理事長より委嘱等が行われた。

委員は次の通り

- 農業経営体から、岸浪俊一（角田）、鎌田源秋（角田）、松崎みや子（角田）、星智宏（枝野）、伊藤稔（藤尾）、渡辺京子（藤尾）、渡辺俊博（東根）、太田正好（桜）、面川義明（北郷）、堀米莊一（西根）の十名。農業団体から菅原保夫（農業委員会）、星真一（みやぎ仙南農協）、渡辺努（川）、荒井清次（川）、星晋一（県南農業共済組合）、渡辺英敏（角田土地改良区）、斉藤啓二（角田限東土地改良区）、藤野浩（加工連）、加藤幸一（農林課）、早坂浩志（農業改良普及センター）、菅野純一（農業振興公社）の十一名で計二十一名。



▲一人ひとりに委嘱状を交付